

4 かんしょ

(1) 作付面積

平成19年産かんしょの作付面積は4万700 haで、前年産並みであった。

これは、鹿児島県及び宮崎県では醸造用の需要等から増加したものの、全国的な農家の高齢化による労働力不足等に加えて、千葉県ででん粉加工場の閉鎖があり減少したためである。(表4、図4)

(2) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は2,380kgで、前年産を40 kg (2%) 下回った。

これは、茨城県等で6月の高温・多照により着いも数が増加したことにより前年産を上回ったものの、鹿児島県で9月以降の高温・少雨によりいもの肥大が抑制されたことにより前年産をかなり下回ったためである。(表4、図4)

(3) 収穫量

収穫量は96万8,400 tで、前年産に比べて2万500 t (2%) 減少した。

これは、10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。(表4、図4)

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移 (全国)

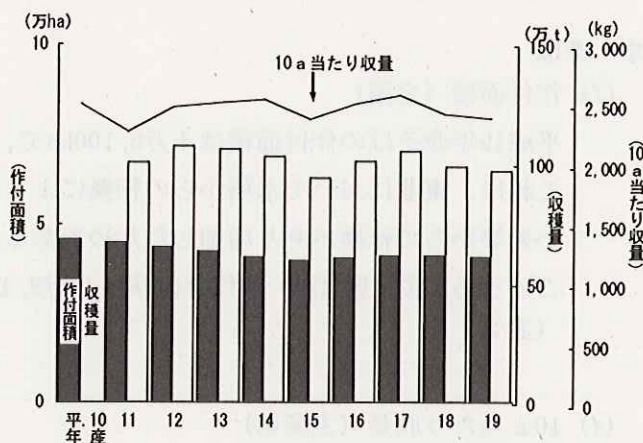


表4 平成19年産かんしょの収穫量 (全国・主産県)

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10 a 当たり平均収量対比
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量			
				対差	対比	対比	対差	対比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
全 国 計	40 700	2 380	968 400	△ 100	100	98	△ 20 500	98	95	
主 産 県	33 000	2 550	840 900	100	100	98	△ 14 200	98	95	
うち、茨城	6 500	2 640	171 600	70	101	106	12 100	108	102	
千葉	5 030	2 620	131 800	△ 240	95	107	2 200	102	107	
静岡	930	2 010	18 700	△ 25	97	99	△ 700	96	98	
愛知	566	1 550	8 770	△ 45	93	87	△ 2 130	80	87	
徳島	1 220	2 490	30 400	△ 10	99	112	3 100	111	108	
長崎	551	1 550	8 540	△ 5	99	90	△ 1 020	89	77	
熊本	1 230	2 300	28 300	△ 20	98	106	1 200	104	98	
宮崎	3 000	2 440	73 200	130	105	100	2 900	104	94	
鹿児島	14 000	2 640	369 600	300	102	90	△ 31 800	92	88	

注：1 かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成19年産については主産県を対象に調査を実施した。

2 全国値は、主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである。

3 主産県とは、全国のかんしょ作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付面積

平成19年産牧草の作付（栽培）面積は77万3,300haで、前年産並みであった。

これは、九州において、自給飼料確保の取組により増加したものの、北海道において、青刈りとうもろこしへの転換があり減少したためである。（表5-1、図5-1）

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,730kgで、前年産を20kg（1%）下回った。

これは北海道で7月の天候不順により、生育が抑制されたことなどによる。

（表5-1、図5-1）

ウ 収穫量

収穫量は2,880万5,000tで、前年産に比べて32万3,000t（1%）減少した。

これは作付（栽培）面積は前年産並みであったものの、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。（表5-1、図5-1）

図5-1 牧草の作付（栽培）面積及び収穫量の推移（全国）

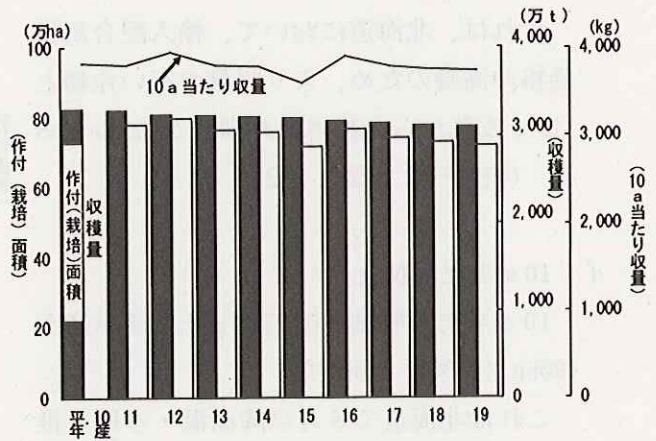


表5-1 平成19年産牧草の作付（栽培）面積及び収穫量

区 分	作付(栽培)面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比
				作付(栽培)面積		10a 当たり 収 量	収 穫 量		
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%
	773 300	3 730	28 805 000	△ 3 700	100	99	△ 323 000	99	98
うち、北海道	561 700	3 350	18 817 000	△ 2 900	99	98	△ 439 000	98	97

注： 1 飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成19年産については主産県を対象に調査を実施した。

なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである（以下、飼料作物の各表において同じ）。

2 主産県とは、全国の牧草作付（栽培）面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

平成19年産青刈りとうもろこしの作付面積は8万6,100haで、前年産に比べて1,700ha(2%)増加した。

これは、北海道において、輸入配合飼料価格の高騰のため、より収量の高い作物として牧草から転換され増加したためである。(表5-2、図5-2)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,270kgで、前年産を190kg(4%)上回った。

これは北海道で8月以降高温・多照で推移し、生育が順調であったことなどによる。

(表5-2、図5-2)

ウ 収穫量

収穫量は454万1,000tで、前年産に比べて25万1,000t(6%)増加した。

これは、作付面積が増加したことに加え、10a当たり収量が前年産を上回ったことなどによる。

(表5-2、図5-2)

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)

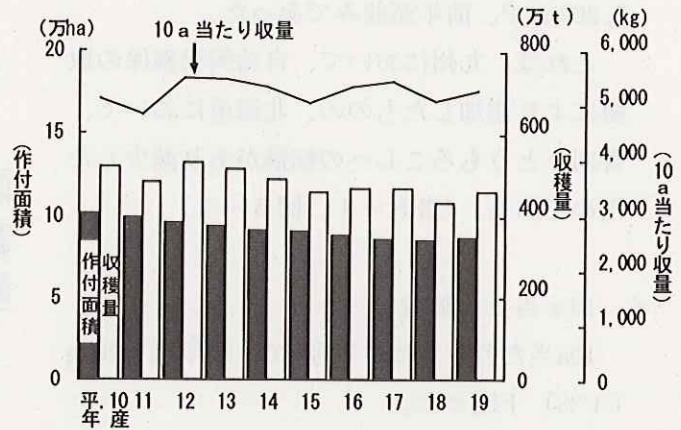


表5-2 平成19年産青刈りとうもろこしの作付面積及び収穫量

区 分	作付面積	10・a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比
				作付面積		10 a 当たり 収 量		収 穫 量		
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
	86 100	5 270	4 541 000	1 700	102	104	251 000	106	99	
うち、北海道	38 300	5 290	2 026 000	2 400	107	104	207 000	111	100	

(3) ソルゴー

ア 作付面積

平成19年産ソルゴーの作付面積は1万9,000haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

これは、九州において、牧草への転換があり減少したためである。

（表5-3、図5-3）

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は6,080kgで、前年産を200kg（3%）上回った。

これは長崎県等で、は種期以降おおむね

天候に恵まれ、台風の影響も少なかったことなどによる。（表5-3、図5-3）

ウ 収穫量

収穫量は115万5,000tで、前年産に比べて3万1,000t（3%）増加した。

これは、作付面積は減少したものの、10a当たり収量が作柄の悪かった前年産を上回ったためである。（表5-3、図5-3）

図5-3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

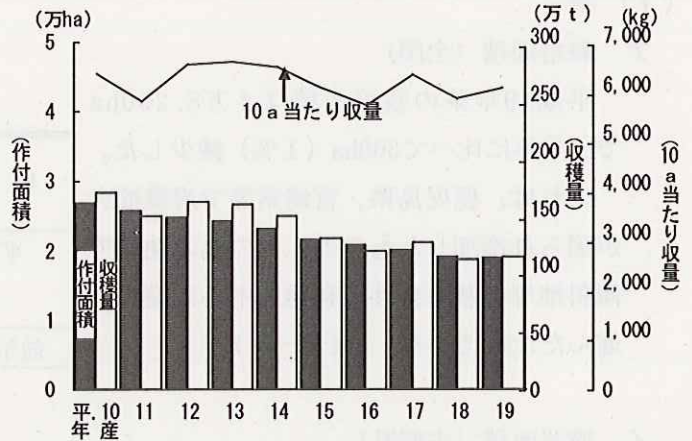


表5-3 平成19年産ソルゴーの作付面積及び収穫量

区 分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比
				作付面積		10a 当たり 収 量		収 穫 量		
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
	19 000	6 080	1 155 000	△ 100	99	103	31 000	103	96	
う ち、										
長 崎	2 290	5 920	135 600	10	100	117	20 200	118	95	
熊 本	1 320	5 960	78 700	10	101	100	400	101	91	
大 分	1 050	7 560	79 400	△ 70	94	114	5 000	107	103	
宮 崎	4 520	6 240	281 900	△ 40	99	101	1 500	101	94	
鹿 児 島	2 500	7 410	185 300	△ 60	98	105	4 600	103	101	

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積 (全国)

平成19年茶の栽培面積は4万8,200haで、前年に比べて300ha (1%) 減少した。

これは、鹿児島県、宮崎県等で規模拡大が図られ増加したものの、その他の地域で傾斜地等の栽培条件不利地を中心に廃園が進んだためである。(表6-1)

表6-1 茶の栽培面積 (全国)

区 分	栽 培 面 積	
	専 用 茶 園	
平.19年	48 200	46 900
18	48 500	47 100
前年対比(%)	99	100

単位: ha

イ 摘採面積 (主産県)

主産県の摘採実面積は4万900haで、前年産に比べて400ha (1%) 減少した。

これは、宮崎県、鹿児島県等で近年の規模拡大の進展により、摘採園地が増加したものの、静岡県等で高齢化などによる廃園等により減少したことによる。

なお、摘採延べ面積は9万3,800haで、前年産並みとなった。(表6-2)

ウ 生葉収穫量 (主産県)

主産県の茶の生葉収穫量は43万200tで、鹿児島県等で5月以降、天候に恵まれ生育が順調であったことに加え、緑茶飲料の需要増加により秋冬番茶の摘採が増加したことなどから前年産に比べて9,000t (2%) 増加した。(表6-2)

エ 荒茶生産量 (主産県)

主産県の荒茶生産量は9万2,100tで、前年産に比べて2,200t (2%) 増加した。

これを茶種別にみると、普通せん茶は6万4,000t (荒茶生産量の69%)、番茶は1万7,200t (荒茶生産量の19%) で、前年産に比べてそれぞれ500t (1%)、1,200t (8%) 増加した。

なお、全国の荒茶生産量は、9万4,100tで、前年産に比べて2,300t (3%) 増加した。(表6-2、6-3、図6-1)

図6-1 荒茶生産量 (主産県)

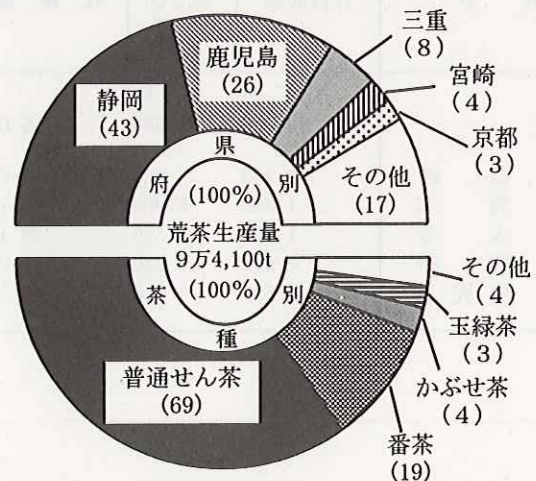


表6-2 摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘採面積 (ha)		10 a 当たり生葉収量 (kg)			生葉収穫量 (t)			荒茶生産量 (t)		
	実面積	延べ面積		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶
平. 19年産	40 900	93 800	1 050	466	485	430 200	190 000	137 600	92 100	39 100	28 700
18	41 300	93 700	1 020	457	479	421 200	188 600	137 100	89 900	39 000	28 300
前年産対比 (%)	99	100	103	102	101	102	101	100	102	100	101

注：主産県とは、全国の荒茶生産量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業を実施する都道府県である。

表6-3 茶種別荒茶生産量（主産県）

区 分	計	単位：t							
		玉露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶	番茶	その他	
平. 19年産	92 100	271	3 840	1 620	64 000	3 130	17 200	1 970	
18	89 900	217	3 570	1 610	63 500	3 340	16 000	1 630	
前年産対比 (%)	102	125	108	101	101	94	108	121	
(参考) 平. 19年産 全国	94 100	277	3 920	1 660	65 400	3 200	17 600	1 990	

注：主産県とは、全国の荒茶生産量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業を実施する都道府県である。

(2) てんさい

ア 作付面積

平成19年産てんさいの作付面積は6万6,600haで、前年産に比べて800ha(1%)減少した。

これは、輪作体系の中で他作物への転換があったこと等による。(表6-4、図6-2)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は6,450kgで、前年産を630kg(11%)上回った。

これは、7月の低温・少雨により生育が抑制されたものの、8月の多照により生育が回復したことに加え、9月上旬の降雨により根部の肥大が進んだためである。(表6-4)

ウ 収穫量

収穫量は429万7,000tで、前年産に比べて37万4,000t(10%)増加した。

これは、作付面積は減少したものの、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

(表6-4、図6-2)

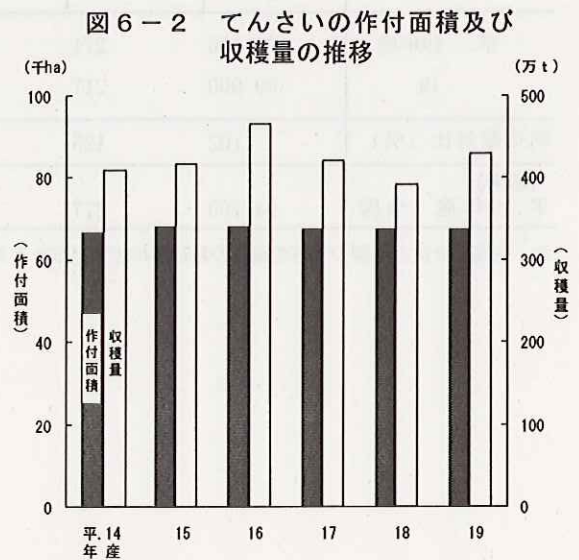


表6-4 てんさいの作付面積及び収穫量

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10a当たり 平均収量 対比
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量		
				対差	対比	対比	対差	対比	対比	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
北海道	66 600	6 450	4 297 000	△ 800	99	111	374 000	110	107	

注： てんさいの収穫量調査は北海道を対象に行っている。

(3) さとうきび

ア 収穫面積

平成19年産さとうきびの収穫面積は2万2,100haで、前年産に比べて400ha(2%)増加した。

これは、平成18年産から始まった増産プロジェクトによる株出面積が増加したためである。(表6-5、図6-3)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は6,790kgで、前年産に比べて750kg(12%)上回った。

これは、6月から9月の適度な降雨により前年産に比べて干ばつの被害が少なく、生育が良好であったためである。

ウ 収穫量

収穫量は150万tで、前年産に比べて19万t(15%)増加した。

これは、収穫面積が増加したことに加え、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

(表6-5、図6-3)

図6-3 さとうきびの収穫面積及び収穫量の推移

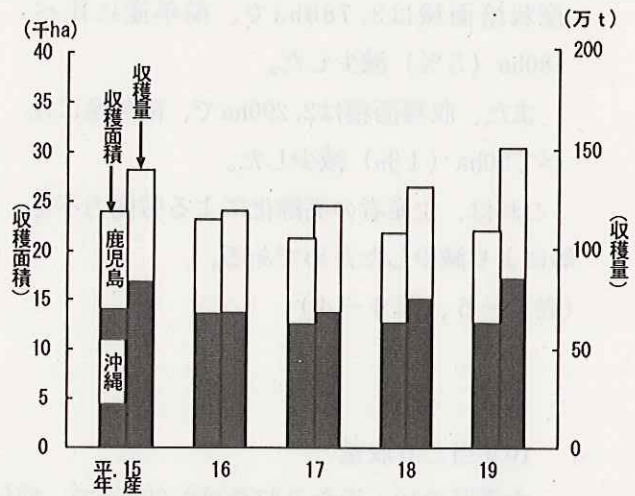


表6-5 さとうきびの作型別栽培・収穫面積、収穫量及び10a当たり収量

区分	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)				10a当たり収量 (kg)			
		計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出
全国 平.19年産	31 000	22 100	8 030	3 410	10 600	6 790	8 270	5 810	6 020
18	30 800	21 700	8 640	3 330	9 770	6 040	6 950	5 290	5 460
前年産との比較 (%)	101	102	93	102	108	112	119	110	110
鹿児島	11 500	9 380	1 910	1 890	5 580	6 930	8 830	6 400	6 460
前年産との比較 (%)	102	104	83	106	112	111	121	108	109
沖縄	19 500	12 700	6 120	1 510	5 040	6 710	8 090	5 100	5 510
前年産との比較 (%)	101	100	96	98	105	115	119	113	110

区分	収穫量 (t)			
	計	夏植	春植	株出
全国 平.19年産	1 500 000	663 900	198 000	638 300
18	1 310 000	600 100	176 000	533 900
前年産との比較 (%)	115	111	113	120
鹿児島	650 200	168 600	120 900	360 700
前年産との比較 (%)	115	101	114	123
沖縄	850 000	495 300	77 100	277 600
前年産との比較 (%)	114	114	110	116

注： さとうきびの収穫面積調査及び収穫量調査は鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

(4) こんにゃくいも (主産県)

ア 栽培面積・収穫面積

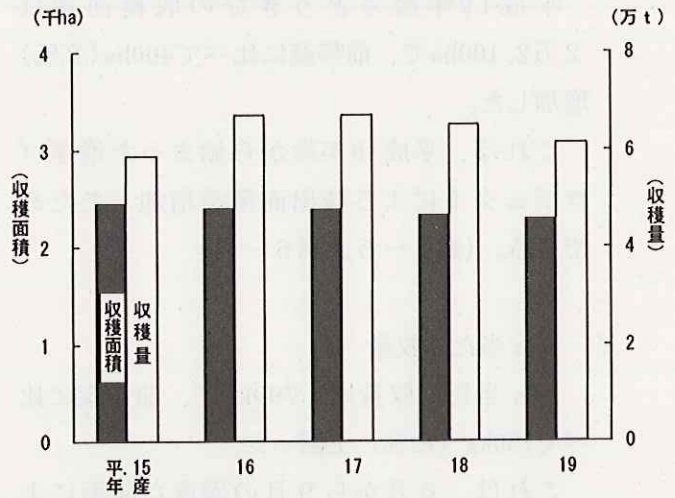
主産県 (栃木県及び群馬県) の平成19年産栽培面積は3,780haで、前年産に比べ180ha (5%) 減少した。

また、収穫面積は2,290haで、前年産に比べて30ha (1%) 減少した。

これは、生産者の高齢化による労働力不足等により減少したためである。

(表6-6、図6-4)

図6-4 こんにゃくいもの収穫面積及び収穫量の推移 (主産県)



イ 10 a 当たり収量

主産県の10 a 当たり収量は2,680kgで、前年産を120kg (4%) 下回った。

これは、8月の高温・少雨による葉枯れや台風第9号の影響による茎葉の腐敗病が発生したことにより、いもの肥大が抑制され前年産を下回ったためである。(表6-6)

ウ 収穫量

主産県の収穫量は6万1,400 tで、前年産を3,500 t (5%) 減少した。

これは、収穫面積が減少したことに加え、10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表6-6、図6-4)

表6-6 こんにゃくいもの栽培・収穫面積及び収穫量 (主産県)

区分	栽培面積	収穫面積	10 a 当たり収	10 a 当たり量	収穫量	前年産との比較				(参考) 10 a 当たり 平均収量 対比
						栽培面積	収穫面積	10a 当たり 収	収穫量	
	ha	ha	kg	t	%	%	%	%	%	
主産県計	3 780	2 290	2 680	61 400	95	99	96	95	101	
栃木	192	107	2 370	2 540	89	86	99	86	93	
群馬	3 590	2 180	2 700	58 900	96	99	96	95	102	

注: こんにゃくいもは主産県調査であり、主産県とは、全国のこんにゃくいも収穫面積 (平成18年産) のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

(5) い (主産県)

ア 作付面積

主産県 (福岡県及び熊本県) の平成19年産作付面積は1,110haで、前年産に比べて260ha (19%) 減少した。

これは、高齢農家を中心とした作付中止や規模の縮小があったことによる。
(表6-7、図6-5)

イ 10a 当たり収量

主産県の10a 当たり収量は1,370kgで、前年産に比べて250kg (22%) 上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ生育が良好だったことによる。(表6-7)

ウ 収穫量

主産県の収穫量は1万5,200tで、前年産に比べて100t (1%) 減少した。

これは、10a 当たり収量が前年産を上回ったものの、作付面積が減少したためである。
(表6-7、図6-5)

エ 豊表生産農家数及び豊表生産量

「い」の生産農家数は851戸で、前年産に比べて179戸 (17%) 減少した。

このうち、豊表の生産まで一貫して行っている豊表生産農家数は810戸で、前年に比べて173戸 (18%) 減少した。

なお、豊表生産農家の平成18年7月から19年6月までの豊表生産量は493万枚で、前年に比べて195万枚 (28%) 減少した。(表6-7)

図6-5 「い」の作付面積及び収穫量の推移 (主産県)

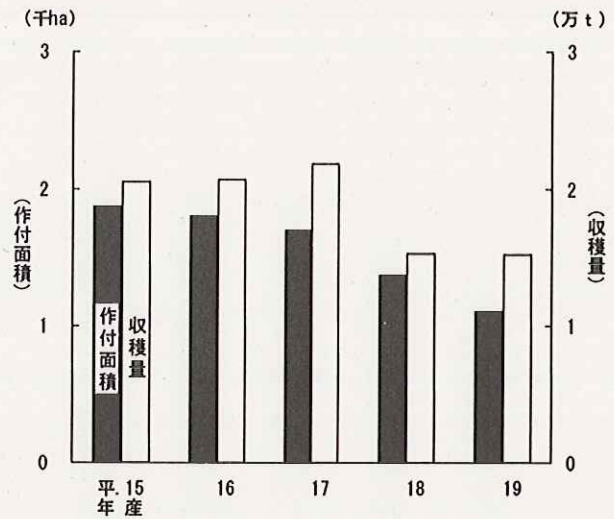


表6-7 「い」の作付面積及び収穫量 (主産県)

区分	い生産農家数	作付面積	10a 当たり収量	収穫量	前年産との比較					(参考) 10a 当たり平均収量	豊表生産農家数	豊表生産量	
					作付面積		10a 当たり収量		収穫量				
					対差	対比	対比	対差	対比				対比
主産県計	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	戸	千枚	
	851	1 110	1 370	15 200	△ 260	81	122	△ 100	99	120	810	4 930	
福岡	39	31	1 240	383	△ 15	67	104	△ 166	70	109	39	317	
熊本	812	1 080	1 370	14 800	△ 250	81	123	0	100	121	771	4 610	

注：主産県とは、福岡県及び熊本県である。